



大阪YWCA

4

2026

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

大阪YWCAピースフェスティバル2026

平和という言葉が揺らぐ時代に

高作 正博



ウクライナ、パレスチナ、イランと大国の武力による破壊、現状変更が続く中、平和憲法を持つ日本もそれに巻き込まれる危険性が高まっている。日本の安全保障政策の変遷と市民として平和憲法を守り抜く意義を高作正博さんをお迎えしてお聞きした。

ウクライナ、パレスチナ、イランと大国の武力による破壊、現状変更が続く中、平和憲法を持つ日本もそれに巻き込まれる危険性が高まっている。日本の安全保障政策の変遷と市民として平和憲法を守り抜く意義を高作正博さんをお迎えしてお聞きした。

安保三文書と軍拡の加速

「国家安全保障戦略」「国防衛戦略」「防衛力整備計画」の安保三文書により、中国やロシアを事実上の敵国と見なし、防衛費をGDP比2%（将来的には3.5%）へ倍増させる方針を打ち出した。この背景には米国製兵器の「爆買い」による財政圧迫があり、政府は国民に対し増税や社会保障削減を伴う「国防の決意」を求めている。防衛体制の強化が外交、防衛、経済、技術、情報といった様々な分野に及ぶことから、国民生活の多くの領域で安全保障上の要請が突出し、個人が様々な負担を強いられることになる。

「反撃能力」の保有だ。政府は「法理上は合憲」と主張するが、これは歴代政府（岸政権等）が「平素から持つことは違憲」としてきた論理を意図的に切り取ったものになる。特に、相手の攻撃「着手」時での反撃は、客観的な判断が困難であり、国際法違反の「先制攻撃」を招き、日本が報復対象となる危険を飛躍的に高める。

内々の敵に対しては、国内への監視と思想の規制が強化される。制定が叫ばれる「スパイ防止法」の本質は、スパイ摘発よりも反対派の「思想の選別」や市民への監視にある。また、外国人や社会的弱者への不満を煽る「モラルパニック」が政治利用され、分断が軍拡への支持に

転換される構造が見て取れる。歴史上、国家は一般市民の戦争被害を十分には補償しない（受忍論）。平和は単なる武力放棄ではなく、恐怖や欠乏からの自由を意味する。警察権力の乱用や冤罪事件が相次ぐ中、私たちは憲法12条が求める「不断の努力」を止めることなく、火が小さいうちに権力の暴走を押し止める抵抗が必要である。

（文責編集部）

安保政策の歴史的変質と「一体化」

「一体化」

戦後の日本政府は、憲法9条に基づき個別的自衛権を最小限に留め、他国の武力行使との「一体化」を禁じてきた。しかし2014年の武器輸出解禁や2015年の平和安全法制関連二法を経て、集団的自衛権が容認され、米軍への後方支援は地球の裏側まで可能となった。かつて憲法違反とされた攻撃的兵器の保有や、他国軍との指揮系

外の敵に対しては防衛力の増

用され、分断が軍拡への支持に

国家が戦争に備えるとき

「国家が戦争に備えるとき」は、戦後70年を振り返り、国家が戦争に備えるべきか、備えるべきならどうするかを問う。著者は、憲法と沖縄を問う（法律文化社、2010年）、『ここがおかしい集団的自衛権―戦争をしない国を守るために』（合同出版、2014年）、『米軍基地問題の基層と表層』（関西大学出版部、2019年）などがある。

たかさくまさひろ

1967年石川県生まれ。上智大学大学院法学研究科博士後期課程、琉球大学助教授を経て、2008年4月より、関西大学法学部教授。著書に『憲法と沖縄を問う』（法律文化社、2010年）、『ここがおかしい集団的自衛権―戦争をしない国を守るために』（合同出版、2014年）、『米軍基地問題の基層と表層』（関西大学出版部、2019年）などがある。

若い女性のためのジェンダー講座

「あれもジェンダー？これもジェンダー！ ～無意識の縛りから自由になる～」

共催：大阪YWCA女性エンパワメント部・日本YWCA ユースエンパワメント事業部

2月21日
22日

「女性として生きる中で抱えるモヤモヤ」を安心して語り合い、その思いを社会に向けて発信するためのツールを作成することを目標とした2日間のプログラム。18歳から30歳までのユース8名と東京・横浜・大阪の各YWCAの若い職員が参加。合わせて開催した公開講座では、フェミニスト作家・アルテイシアさんの講演に一般参加者を含めて計23名が参加した。



好きな方法で思いを発信するツール作り

「知識」や「気づき」を得るチャンスがあることの深い意義を知ることができる内容であった。その後は、YWCAが大切にしているセーフスペースに関するワークショップや、ジェンダーの刷り込みや思い込みに関するワークショップを



手作りお菓子でカフェタイム

1日目冒頭の公開講座でアルテイシアさんは、ジェンダー差別に「気づく」という一歩の大切さを非常に分かりやすく語られた。例えば、「言葉は文化を作る」ため、何気ない一言でも、実はジェンダー差別を生んでいるかもしれない。そうならないためには、思いやりだけではなく「知識」が必要であり、そのような

「知識」や「気づき」を得るチャンスがあることの深い意義を知ることができる内容であった。その後は、YWCAが大切にしているセーフスペースに関するワークショップや、ジェンダーの刷り込みや思い込みに関するワークショップを

2日目は、1日目に得た学びを思い起こしながら、いよいよ発信ツールの作成に入った。「ジェンダーステレオタイプを乗り越える」をテーマとして、SNS投稿作成や寸劇台本作成などの選択肢もあった中、参加者は双六とミニ冊子の2チームに分かれた。作成された双六は、ゲームが進むに連れてジェンダーステレオタイプに気づける仕組みになっており、ディスカッションができる工夫もなされていく。ミニ冊子では、

行い、安心してジェンダーを語り合う時間を過ごした。また、CSW(国連・女性の地位委員会)に日本YWCAから派遣されたユースによる報告の時間も設け、ユースがお互いに刺激を与え合っている様子であった。この日の夕食と翌日の昼食は会員手作りの食事を皆で囲み、打ち解けた和やかな雰囲気にも包まれていた。普段は語れないようなことも語り合える場を、そして社会に対してアクションを起こすユースの可能性を發揮する機会を、提供していただくことの意味を強く感じさせられる2日間のプログラムとなった。

(職員 吉年 唯音)



ぶどうの木

シャロンに住んで

2000年1月、千里センターが総合福祉施設シャロン千里に生まれ変わった。記念式典に参加した夫は自分が一人になったらここに住みたいと話していた。

22年、闘病中の夫は階段に不安を感じ、思いがけず12月に夫婦で二人部屋に同居した。夫は北千里教会への坂道を電動車椅子で礼拝に通った。8ヶ月後コロナで入院、リハビリ中に誤嚥性肺炎になり急性腎炎で神様のもとに旅立った。三か月後夫が旅したいと願っていた松山へ子ども達と三人で旅をして、瀬戸内の島々の美しさに癒された。

一人シャロンに残された私は、スタッフの方々の笑顔のサポート、入居者の皆さんとの出会い、自由に外出できる喜び、会員活動への参加、シャロンロビーの生花と教会の礼拝花を生ける幸せを味わい、心から感謝している。

(会員 辻 加代)

2026年イースターメッセージ

弱さの中にやぶる神の力



大阪女学院大学 朴 賢淑(パクヒヨンス)

受け持っている大学の授業では、学生と共に聖書を学び、自らが感じたことや心に響いたことを記す振り返りシートを設けている。

先日、「イエスの死と復活」を取り上げた際、次のようなコメントが寄せられた。

「イエスが最後の晩餐を弟子たちとともにされたのち、ゲッセマネの園で祈られた場面について、神の子であるにもかかわらず、私たちと同じように自分に迫り来る死の影を前にして、弟子たちに『私のために共に祈ってほしい』と語られた姿に親近感が湧いた。やはりイエス・キリストは、私たちと同じ身体をもった人間であったのだ。」

たことに深い共感を覚えるようである。神への愛と人々への愛を中心に生きられたイエスは、病む者、貧しい者、弱い者が助けを求めた際には、奇跡を伴う力をもって彼らと共にいられた。

そのイエスが、最後には、ご自身にはなお隠されている神のご計画の中へと自らを委ねられたのである。その結果として復活があった。これは、今を生きる私たちにも希望をもたらしている。イエスの復活は、単に一人の人物が死から回復したという出来事ではない。それは、死の力そのものに対する神の決定的な勝利を意味している。復活とは、死の恐れに直面する私たち人間の現実が、神のいのちによって最終的には包み越えられるという希望の宣言なのである。

が今なお叫ばれる現代にあつて、「弱さの中に神の力が宿るといふ聖書の示す真理は、果たしてこの時代に実現し得るのだろうか」と、私たちは落胆しがちである。それでもなお、希望をもつて今日という一日を歩もうとする勇氣はどこから来るのかと自問する時、弟子たちに「私のために祈ってほしい」と願い、ご自身も悲しみもだえながらゲッセマネにおいてご自分の弱さをさらけ出し祈られたイエス・キリストの勇氣と神への信頼に思い至るのである。

私たちにもできることは小さい。それでも、私たちを用い、私たちを通して働かせる神の力を信頼する時、その力は、イエス・キリストを死から復活へと導いた時と変わることがないのだという確信に、私たちは慰められるのである。

Books 編集部文庫

『物語 イランの歴史』 中公新書 宮田 律 著

『イラン現代史』 中公新書 黒田 賢治 著



日本人にとってイランという国を見る時、ややもすれば欧米寄りの目線になりがちだ。副題の誇り高きペルシアの系譜が示すように、広大なペルシア帝国を築き、正倉院へ宝物をもたらしたペルシアはアラブのイスラーム勢力や欧米諸国の干渉を受けながらも独自の文化を守り抜いた。

イラン現代史とあわせて読めば、イスラーム革命から、核問題、対イスラエル戦争について詳しく知ることができる。

聖書の言葉
キリストがわたしのうちに生きておられる (ガラテヤ書2章20節)



日本YWCA役員・運営委員研修会

研修会は3回で構成され、第1回は「YWCAを語ろう」、第2回は「YWCAをつなごう」と言うテーマで開催された。30人以上のオンライン会議は初めてで最初は不安だったがリダーの人の落ち着いた穏やかな口調で緊張の糸がほぐれた。第1回は前半YWCAハンドブックを使って楽しくクイズ形式でYWCAの基盤や歴史を学んだ。後半は6名程度のグループに分かれ自分のこと、所属Yのことなど自由に話し合った。第2回は繋ぐと言うことから会員活動における「引き継ぎ」の現状とYWCAらしい安心の共有がある引き継ぎとは、と言うことについて考えた。引き継ぎの難しさについて、繋ぐ側は自分のアイデンティティを失う寂しさを感じたり、受ける側は何が分から

ないか分からない、分かっているもそれを聞くのを躊躇するなどバトンを受ける側にも壁がある。その壁を乗り越えられた時に初めて安心して役割が繋がれる。第2回も後半はグループに分かれ個々の引き継ぎの現状などについて話し合った。非営利組織全体に言えることであるが高齢化、後継者の不足及び人材確保の難しさを改めて感じた。しかし同時にこのような会を重ねて行く意義も感じられる会であった。最終第3回は西原美香子理事による「財政から見るYWCA」が1月25日に開催され財政の基本から学んだ。色々な角度からYWCAを考え直す良い機会となった。(会員 田中 真砂子)

キリスト教葬儀に関する全てを承っております
キリスト教葬儀専門 株式会社 イースター式典社
0120-415-087(24時間) info@easter-net.co.jp
営業エリア:近畿2府4県・福井・三重・鳥取・岡山・徳島・香川
兵庫 東尼崎市杭瀬本町1-2-5 グラシアコート3F TEL 06-6415-6861 FAX 06-6415-6862
http://www.easter-net.co.jp

天然醸成発布専門店
吾妻屋 昆布司
株式会社 吾妻屋 天満店(ぶららてんま内)
〒530-0033 大阪市北区池田町3-1 ぶららてんま1階

大阪YWCA第109回定期会員集会報告

2026年3月7日（土）第109回定期会員集会在梅田会館にて、出席者35名、委任状120名により開催された。担当者から示された2024年度決算報告、2025年度事業・会計現状報告、2026年度事業計画案・予算案が承認された。社会貢献活動の部分では、日本YWCAのLA(Local Action)助成を得て、2026年度から2年間にわたり実施予定のパレスチナ問題を広く知ってもらおう活動についての説明がなされた。

(会長 津戸 眞弓)



会長 津戸 眞弓さん

2026年度新役員紹介



副会長 大畑 知子さん



副会長 小澤 裕子さん



書記 田中 真砂子さん



会計 平井 佐津紀さん



パレスチナの ちいさないと なみ 高橋美香 文・写真 皆川万葉 文 かもがわ出版

地域YWCAが協働で取り組むプロジェクトに、日本YWCAが資金を提供する「ローカルアクション」、略してLA。「女性・平和・人権・環境」いずれかのテーマで、若い世代と協働することが要件。大阪・京都・神戸三市Yでパレスチナの平和を求めるLAがいよいよ始まります！ウエブなどを活用しながら、全国に関心ある若者となが取り組む仲間を募集します。

企画の中心は写真展とパレスチナを伝える併設プログラム。パレスチナを無かったことにはしない、そこには私たちが変わらないうる人が暮らしていると証言できる人を増やしていきたいのです。併設プログラムは若者たちの視点を生かし、ゼロから共に生み出したいと考えています。「爆撃で何人が死んだというニュースではなく、そこに生きる人には名前があると伝えたい」という写真家・高橋美香さんの思いに共感し、写真をお借りします。夏頃に大阪で第1回写真展を開催予定。続報お待ち下さい。

(会員 宮崎 祐)

ヴィオラ&ピアノ デュオコンサート



1月31日(土)
@シャロン千里
2階ホール
Viola 林のぞみ
piano 堀江詩葉

たくさんの方々のご来場ありがとうございました

- ご協力ありがとうございます** 〔26/1/1〜26/2/28〕敬称略順不同
- 賛助費** 大川 哲次 熊田多美子 小林 直子 吉田佳代子 日本基督教団 希望ヶ丘教会 日本基督教団 堺教会
- 会員維持費** 中村 友美 日本基督教団 南住吉教会 匿名 1件
- その他** 奥 美和子 片山 隼亮 村松 通子 森本ぶどう園
- 寄付** 千里 金 香百合
- クリスマス献金** 川崎 仁子 関根 聡 宮澤 玲子 日本基督教団 扇町教会 日本基督教団 大阪城北教会 日本基督教団 北千里教会
- 募金** 9口 332、451円
- 訃報** 会員 大見川 昭子さん 3月10日逝去(98歳)

- 1月運営委員会報告** 〔報告〕▼千里委員会 全国から集まった毛糸の帽子312個、未使用歯ブラシ、石鹸等と合わせて釜ヶ崎伝道所へ ▼日本語教師会 入会試験実施7名合格
- 2月運営委員会報告** 〔協議〕①日本YWCAウェブ会員の受け入れ可能活動検討、パレスチナグループ紹介決定 ②3/7(土)午前 定期会員集会当日進行案協議 ③3/7(土)午後 ピースフェスティバル案内ちらし内容検討
- 〔報告〕▼財務委員会 2025年4月〜12月収支計算書報告 2026年度予算案検討 ▼梅田会員部 1/27(火)水餃子作り
- 〔協議〕①3/7(土)ピースフェスティバル当日進行、役割分担協議 ②2026年度世界YWCA日集会 京都YWCAとの共催内容案協議

☆梅田 新入会員歓迎!!

会員 高田 布美 高橋 信子 高本 順子 吉年 唯音 LIANG YUNZHI

会友 坂本 博志